

ヒメガマ (学名: *Typha domingensis*)

[ガマ科 ガマ属]



▲水の郷只見川公園のヒメガマ



▲ガマの穂の上に見える緑色の部分が裸出した花茎

ヒメガマは、休耕田や浅い池、川べりなどの水辺に生育する多年草です。只見町では、石伏、只見、亀岡、布沢などに生育しています。茎の高さは1.5~2m、葉は線形で長さ1~1.5m、幅は0.5~1.0cmになります。「ガマの穂」と呼ばれる円柱型の花序が特徴で、直立した花茎の上部に雄花穂がつき、その下の太く目立つ部分が雌花穂になります。雌花穂はそのまま結実し、果穂となり晩秋には完熟して白い毛が出て、風によって種子が飛んでいきます。ガマ科は、ガマ属のみからなる科で、只見町ではガマ、コガマ、ヒメガマの3種類が確認されています。ヒメガマは上部の雄花穂と下部の雌花穂の間が離れており、その間に裸出した花茎が確認できます。一方、ガマ、コガマは雄花穂と雌花穂がくっつき隙間がないため容易にヒメガマと見分けることができます。ヒメガマはガマよりやや小さいことから「姫」という名前がついています。

只見町では、ガマの仲間は総称して「ガバ」と呼ばれ、ゾウリ、ゲンベエ、フカグツゲンベエ、ハバキを作るための材料として利用されてきました。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

只見ユネスコエコパーク関連事業・只見自然環境基礎調査報告
「只見の湿原—その生態と歴史」

期 間:11月20日(月)まで開催

場 所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

市町村対抗県ソフトボール大会

10月15日、「第4回市町村対抗県ソフトボール大会」が相馬市の相馬光陽ソフトボール場で行われ、只見町代表が榎葉町代表と対戦しました。試合では、3回に榎葉町打線の猛攻にあい一挙10点を挙げられ、只見町は4回に得点圏に走者を進めますがあと一本が出ず、結果0-11で4回コールド負けとなりました。只見町代表は今大会の悔しさをバネに、来年初勝利を目指します。



▲只見町代表として試合に挑んだ選手の皆さん

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています